

Empowered by Innovation



Our CSR Harmony

A stylized tree graphic on the left side of the page. The trunk and branches are thin grey lines. The foliage is represented by numerous overlapping circles of various sizes and colors (blue, green, yellow, orange, purple).

CSR Report

ハイライト

2010

NECキャピタルソリューション株式会社



Top Message

CSRへの取り組み



リースにとどまらないソリューションを提供する会社に生まれ変わりたい。そういった思いから2008年の創立30周年を機に、社名を「NECキャピタルソリューション株式会社」といたしました。私たちの企業理念は「私たちは『Capital Solution』を通してより豊かな社会の実現に貢献します。」です。

これまでは、NEC製品をはじめとする情報通信（ICT）機器のリースによって、お客様の設備投資を支援してまいりました。これからは、さらにご満足いただけるサービスを目指し、お客様の経営資源（キャピタル）に関わるあらゆる課題に対して、解法（ソリューション）を提供していきます。

当社はリース業界の先駆けとして1999年にISO14001を取得して以来、環境経営を推進し、またCSR推進体制の強化を図ってまいりました。クラウド化という大きなパラダイムシフトを迎えている中で、私たちも新たに「Our CSR Harmony」をテーマにCSR活動を進めていきます。社員一人ひとりが創意を重ね、新たなソリューションを生み出すことで、ステークホルダーの皆様へ価値を提供していきたいと考えています。

このレポートをご一読いただき、ぜひ忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

2010年6月

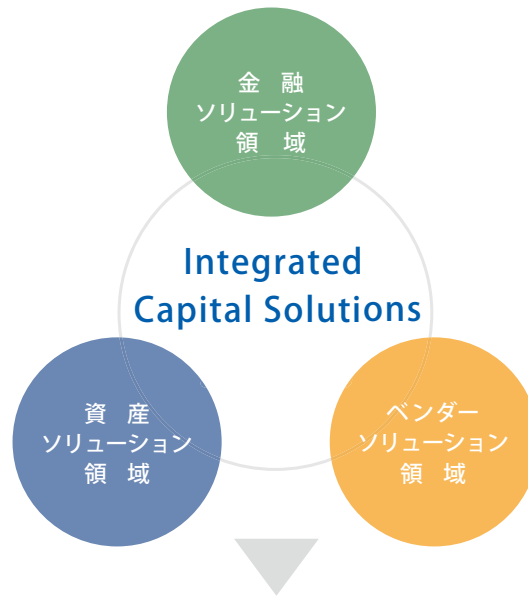
NECキャピタルソリューション株式会社
代表取締役社長

田中 重穂

企業理念

私たちは「Capital Solution」を通して より豊かな社会の実現に貢献します。

お客様の経営資源（キャピタル）に関わる課題について、
様々な解決策（ソリューション）を提案できる企業を目指しています。



社員一人ひとりが、
3つのソリューションの社会的役割を理解し、
責任をもって推進することで、
「NECキャピタルソリューションのCSR」は実現します。

ハイライト「私たちのCSR」

NECキャピタルソリューションが取り組むCSR活動の「今」と「これから」を、ハイライトでご紹介します。

HIGHLIGHT 01	社員ダイアログ「私たちのCSRとは？」	P.3
HIGHLIGHT 02	環境に貢献するファイナンス「地下水膜ろ過システムで安全な飲料水を」	P.5
HIGHLIGHT 03	私たちの事業領域「3つのソリューションの可能性」	P.7
HIGHLIGHT 04	生きもののいっぱいの未来を目指して「ビオトープに学ぶ環境の大切さ」	P.9
社会性報告		P.11
環境報告		P.13

社員ダイアログ

NECキャピタルソリューションの社会への貢献

私たちの「CSR」とは？

NPO法人「環境文明21」の加藤三郎氏を交え、田中社長と3人の社員のダイアログを実施しました。

「キャピタルソリューション」に込めた思い

お客様の言葉の中に、 課題解決のヒントを発見する

田中 私たちは、一昨年社名を「NECキャピタルソリューション」に変更しました。「キャピタル」というのは人、もの、お金等の経営資源、「ソリューション」とは解決方法です。その後企業理念も、「私たちは『Capital Solution』を通してより豊かな社会の実現に貢献します。」に変更しました。お客様の経営課題に対して当社としての解決策をご提案することで、豊かな社会の実現に貢献する。これが新しい企業理念に込めた思いです。

松岡 私は営業の立場から、「ソリューション」の提供とは、お客様に対して何かお手伝いできることがないかを探していくことから始まると思っています。私たちの商品をお客様に使っていただく、という営業アプローチではなく、お客様がどんなことで困っているのか、何を求めているのか、それを聞き出せるような信頼関係をまず築く。パートナーとして認めてもらう。そこには創意工夫が求められます。

菊地 社名を変更してから、全社的に営業スタイルの変革に取

り組んでいますが、我々バックオフィスもまた同様です。一昨年から開始したシステム・プロジェクトで、新しいビジネス形態に対応していけるシステム構築を急ピッチで進めています。そのプロジェクトメンバーからすれば社員もお客様ですので、社員とのコミュニケーションを重視して進めていきます。

田中 プロダクトアウトではなくマーケットインの姿勢であれば、お客様の言葉の中に、抱えている課題のヒントが発見できます。それを掘り起こして的確に反応していくという営業スタイルへの変革と、それを支えるバックオフィスの革新の両面を推進していくことが必要です。

加藤 その意味で、御社の名前「NECキャピタルソリューション」にはとても深い意味があると思います。

新しいチャレンジを重ねる

500人という規模は、私たちの強み

松岡 昨年の私のミッションは新たな商品を考えつくり上げることでした。お客様を何度も訪問し、課題を共有し、ソリューションを提供する。一昨年までは商品一覧を持って





田中 重穂
NECキャピタル
ソリューション
代表取締役社長



菊地 修司
情報システム部長



松岡 研次
事業法人営業部
営業課長



山下 理恵
コミュニケーション部
主任



加藤 三郎氏
NPO法人
環境文明21共同代表
(株)環境文明研究所
代表取締役・所長

行って「いかがでしょうか？」でした。これではお客様の課題を引き出すことはできません。接点を増やしていくのはもちろんのこと、こちらからも情報を提供するなどの働きかけを行い、お客様や社会にどんな課題や問題があるかを感じ取り、それに応えていけるよう勉強もしました。

山下 新しいことにチャレンジする。これは私たちの会社のよい面だと思っています。私はIR(投資家向け広報)を担当していますが、株主の皆様にも事業活動を報告する「事業報告書」の発行とは別に、漫画形式の株主通信(「NECキャピタルソリューションMAGAZINE」)を発行しています。この漫画形式の冊子は、IRでは珍しい試みとして、新聞にも取り上げられました。

加藤 500人という会社の規模が、「意識を共有する」「まとまる」という意味で大きな要素になっていると感じます。数万人の企業では、働いている社員一人ひとりの顔までは把握できない。この点で御社にとっても期待しています。

田中 そうですね。たしかに500人という規模は、社員一人ひとりの顔が見えます。社内コミュニケーション、CSRの浸透という意味でも、これは私たちの強みだと感じます。

山下 社外のコミュニケーションという点では、年に2回株主アンケートを実施しているのですが、社長もIR担当役員も約800通あるアンケートハガキ全てに目を通してしています。株主とのコミュニケーションも大事にしているのだと感じました。

田中 お叱りの言葉であっても直筆で丁寧に書き込んでくださっており、ありがたいことだとつくづく感じています。

加藤 社会とのコミュニケーションを、アンケートを読むことで深めようという、まさにCSRの姿勢ですね。一方で、CSRの観点から、今は温暖化対策を中心とする環境対応が求められています。環境対応、省エネ型の商品のリースやサービスを社会に提供することは、それだけで社会への貢献です。物件の廃棄にともなう負担も小さくありません。そんなときに御社がキャピタルソリューションを提案する。社会のニーズに合致していると思います。

田中 そうですね。世の中が大きく変わってきています。今

は廃棄の問題だけでなく、情報セキュリティ等の面では、PC1台の管理でも企業にとっては大きな負担がかかります。私たちはICT機器の調達から撤去までの運用管理を支援するサービスを展開しています。これは機器を使用することによるコスト、リスク、業務負担を軽くするという発想から生まれたサービスですが、結果的に地球環境にとってもよい方向につながっているのだと思います。

活き活き働き、社会に貢献する

お客様に役立ち、社会全体にも役立つ仕事を

山下 私は小さい子どもがいるので、育児短時間勤務をさせていただいています。私たちぐらいの規模の会社で、そのような環境をつくっていただいていることに感謝しています。仕事と家庭をきちんと両立させ、女性社員として活き活き働くことで、会社にもっと貢献しなければと思っています。

菊地 私の部にも育児短時間勤務の女性がいます。彼女が活き活き働けるかどうかは彼女だけの問題ではなく、各部門、そして会社全体の問題です。働きやすい職場づくりには、私たち自身の意識が問われるのだと思います。

田中 私たちの課題は、「いかに幅広いお客様にパートナーとして認めていただくか」です。それぞれのお客様が抱える多様なニーズに真摯に耳を傾け解決策を提供していく。それが私たちの果たすべき役割であり、お客様や社会が豊かになるために貢献できることだと考えています。

加藤 田中社長のお話は、近江商人の「三方よし」「店よし、客よし、世間よし」に置き換えてみると非常にわかりやすい。自分たちがよいと思っで行う仕事、お客様に役立ち、それが社会全体にも役に立つ。まさに地に足がつく、本来の「CSR」だと思います。



ホーム>CSRへの取り組み>CSRレポート2010>
社員ダイアログ

関連情報

ホーム>CSRへの取り組み>ビジョンと戦略>理念とビジョン

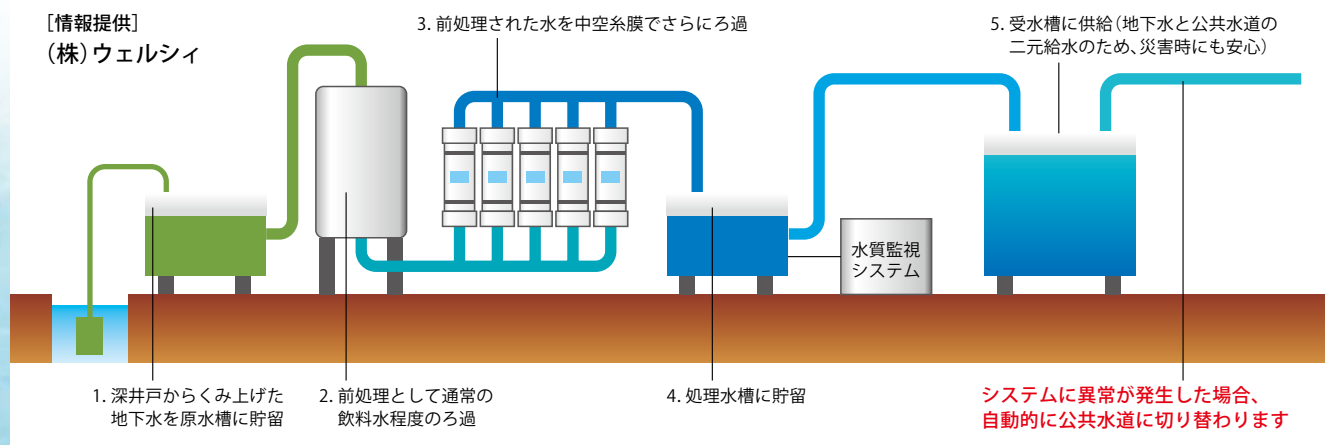
環境に貢献するファイナンス

地下水膜ろ過システムで「安全」な飲料水を

環境に貢献する取引をエコファイナンスと認定し、エコビジネスの活性化を図るNECキャピタルソリューション。多様なエコファイナンス事例の中から、本ハイライトでは株式会社ウェルシィとのベンダー提携プログラムで提供している「地下水膜ろ過システム」を紹介します。

●「地下水膜ろ過システム」概要図

深井戸からくみ上げた地下水を、最新の膜処理を施すことによって安全でおいしい飲料水として安定供給するシステムです。



「地下水膜ろ過システム」普及のために

安全・安心な水でライフライン確保

NECキャピタルソリューションは、2006年に株式会社ウェルシィと資本提携および業務協定を締結し、ウェルシィ製「地下水膜ろ過システム」の販売促進に貢献すべく、リースを活用した多様な販売プログラムを提供しています。

「地下水膜ろ過システム」は水を多く使う病院やホテルといったお客様のほかにも、大震災など災害時に地域のライフライン供給に協力する学校等にも導入されています。

本システムは、現在全国で約800ヵ所に設置されています。全国2,000ヵ所の設置が実現すれば、自転車ですぐに届く圏内で誰でも水を手に入れるといわれています。

「地下水膜ろ過システム」が果たす4つの社会的役割

① ライフラインの確保

地下水は渇水や地震等の影響を受けにくく、大震災等の災害時にライフラインの中でも復旧に時間を要する上水道を確保できます。

② 省エネ・省コスト

初期投資を必要とせず、毎月の上水道料金が削減できます。夏冷たく冬温かい恒温性を活かし空調に利用することで、エネルギーコスト削減も期待できます。

③ 環境保全

大規模なダム建設にともなう自然環境破壊が不要な小規模設備で持続可能な自然の水環境を活かすため、環境負荷を低減できます。

④ 安全・安心な水を供給

深井戸からの揚水のため、自然のろ過機能を経た良質な水を確保できます。さらに高度膜ろ過により食中毒の原因となる原虫や細菌類等を除去し、安全・安心な水を供給します。

協力体制で最適なソリューションを

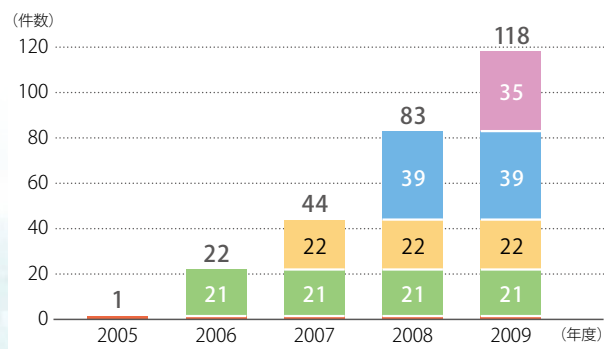
両社の強みを合わせ高める

井戸を掘れば、どこでも十分な量と質の地下水が出るわけではありません。また、場所によっては井戸の取水制限があります。

(株)ウェルシィは全国の井戸掘削業者との連携により、独自の全国地下水マップを作成し、良質な水を十分に供給できるネットワークと技術力をもっています。

(株)ウェルシィと当社は両社の拠点間で情報交換会を行うなど、お互いの強みを合わせ高めることで、どんなお客様に対しても最適なソリューションを提供できる協力体制を強化しています。

●「地下水膜ろ過システム」成約実績推移



提携プログラムのこれからのビジョン

地域社会と環境保全に貢献する

(株)ウェルシィは、膜ろ過技術のノウハウから工業用水の飲料水化システムや背負えるタイプの災害時非常用浄水装置の製品化を実現しました。また、排水リサイクルシステムや雨水有効利用の浄水システムを開発するなど、上水道コスト削減とライフライン確保の手段をさらに多様化する事業を展開しています。

さらに、地下水マップの土壌データ等を参考に、CO₂大幅削減を視野に入れ、地下水・地中熱を利用した熱交換システムの研究開発にも取り組んでいます。

私たちは、今後も両社の連携を強化し、様々な自然エネルギー有効活用システムを社会に提供するお手伝いをし、地域社会と環境保全に貢献していきます。



地下水膜ろ過システム



ホーム>CSRへの取り組み>CSRレポート2010>
CSR/ハイライト2010>環境に貢献するファイナンス

全国に水のセーフティネットワークをつくるため

NECキャピタルソリューション様は、2006年3月に弊社に株主としてご出資されるとともに弊社との業務協定を締結し、地下水膜ろ過システムを環境配慮型製品としてご認定され、多くのリース案件をまとめていただきました。私が目指す「早急に全国に2,000ヵ所の水のセーフティネットワークをつくる」という構想を強力に後押ししていただく形にもなり、大変感謝しております。今後とも環境に配慮した製品の開発に力を注ぎ、ご支援をいただきたいと思います。



株式会社ウェルシィ
代表取締役社長
福田 章一

エコファイナンス推進で環境保全に貢献

「地下水膜ろ過システム」は、環境保全や地域社会への貢献という面でも、豊かな社会の実現を目指すNECキャピタルソリューションにとって、非常に意義のあるプログラムです。私たちは、今後も大切なパートナーとして(株)ウェルシィ様と連携し、様々な自然エネルギー有効活用システムをエコファイナンスで提供し、地域社会と環境保全に貢献していきたいと考えています。



特定営業部長
原 健祐

私たちの事業領域

3つのソリューションの「可能性」

当社は、メンテナンスリース、PC-PIT、立替払委託契約、APF各種債権流動化、企業融資等様々な商品群を取り揃えています。しかし、これらは私たちの考えるソリューションの一手段に過ぎません。NECキャピタルソリューションは、3つの事業領域からお客様・ベンダー様の多様なニーズに沿ったソリューションを提案し、その可能性を追求しています。

様々なニーズに対する3つのソリューション

1社1社異なる課題に応えたい

NECキャピタルソリューションの事業ドメインは、金融ソリューション、資産ソリューション、ベンダーソリューションの3領域です。

金融ソリューション領域ではアセットファイナンス手法の活用等のファイナンスを、ノンバンクならではの視点から展開しています。資産ソリューション領域ではメーカー系の強みを活かし、ICT機器に関わる高付加価値サービスを提供しています。ベンダーソリューション領域ではNECグループを中心とした提携ベンダーとの販売金融ビジネスでの効率化、ビジネスモデルの転換を図っています。

お客様やベンダー様の抱える課題や悩みは、1社1社全て違います。私たちはこれら3つのソリューションを基本に、多様なお客様のニーズに沿って、サービスを統合・発展させていきます。そして、幅広い経営資源（キャピタル）に関する課題に対して最適なソリューションを提供し、お客様・ベンダー様の満足度向上に努めていきます。

金融ソリューション

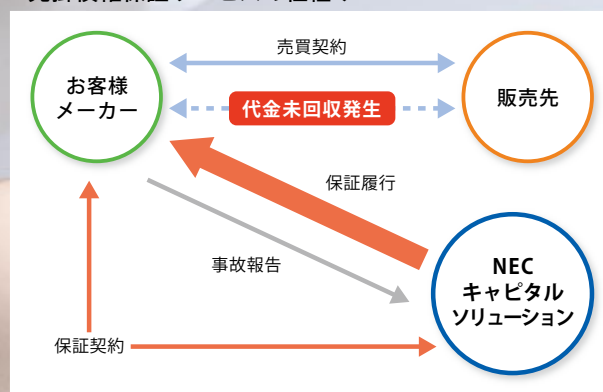
お客様のリスクを軽減するサービス

金融ソリューションでは2009年度「売掛債権保証サービス」を開始しました。このサービスは、売掛債権が回収不能となった場合、NECキャピタルソリューションが限度額を上限に貸倒（実損額）を保証するものです。

商品を販売しても対価はすぐに支払われるとは限らず、タイミングによっては債権残高が多くなる場合があります。ある電子部品メーカーでは、主要取引先からの入金に長い期間がかかるため、与信リスクの分散に苦慮していました。

売掛債権に対する保険商品はあるものの、保証期間や金額の多寡等の自由度が低く、うまく利用できないケースも少なくありません。「多額の売掛債権を長期に亘って保有するリスクを軽減したい」というニーズに応えたのが、このサービスです。

● 売掛債権保証サービスの仕組み



資産ソリューション

ICT機器をトータルにサポート

ICT機器の導入から撤去、廃棄に至るまで、全てのライフサイクルに応じた運用管理をトータルサポートするのが「PC-PIT(PC-Professional IT)サービス」です。

(1) PCの電源を入れればすぐ使える状態でお届けする「キittingサービス」、(2) 障害発生時に代替機を即時お届けする「障害対応サービス」、(3) PITシステムによる調達支援から運用管理までの「Webサービス」、(4) 契約終了機器の撤去とデータ消去、この4つを基本サービスとし、ほかにもお客様に最適なサービスメニューを多数用意しています。

2009年度は通信モジュール内蔵パソコンに高速無線サービスをセットにした「PCコミュニケーションサービス」も開始しました。

●PC-PITサービスの内容

撤去・売却支援

- 入換撤去作業
- データ消去(セキュリティ)
- 産廃処理(リサイクル)
- リフレッシュPC(リユース)

調達業務支援

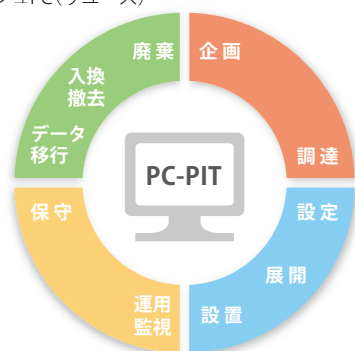
- システム設計・企画支援
- PC標準仕様策定
- 追加調達(Web購買)

運用管理支援

- 障害対応(センドバック)
- 資産、ライセンス管理(棚卸)
- ヘルプデスク、障害切分
- 障害復旧対応

導入展開支援

- SWインストール
- システム設定(セキュリティ)
- マスター機作成
- 拠点展開
- 現地設置支援



ベンダーソリューション

NECグループとしての強みを発揮

ベンダーソリューションは、NECグループの金融会社としてベンダー様と一体となった活動を行っています。

ある飲食業のお客様の全国店舗の売上管理システム大規模リニューアルでは、当社がお客様の資金ニーズをくみ取るため、初期の企画段階から検討に参加させていただきました。これにより、お客様・ベンダー様双方にとって最適なソリューションを提供できました。

また、NECグループ向け講演会「マネジメントサロン」を開催するなど、金融に関する情報提供を通じて、共に知識を深めていく活動を積極的に行い、ベンダー様の販売活動に対する支援を行っています。



ホーム>CSRへの取り組み>CSRレポート2010>
CSR/ハイライト2010>私たちの事業領域

担当者の声

金融ソリューション

私たちは、多様なお客様の異なるニーズにお応えできるソリューションの提供を、いつも心がけています。「売掛債権保証サービス」では、お客様の声を直接うかがうことで自由度の高いサービスをご提供できました。

事業法人営業部
主任

石川 晃



資産ソリューション

「PC-PITサービス」では、特にお客様の現状のお悩みや課題を綿密に事前ヒアリングすること。これを心がけています。お客様の新しいご要望にお応えしてできたサービスメニューも続々とリリースしています。

ソリューション推進部
主任

園田 隆雄



ベンダーソリューション

私たちはNECグループを中心としたベンダー様のご要望に応えるために、連携を深める活動を常に心がけています。ベンダー様と一体となって活動することで、お客様に対して付加価値のあるソリューションの提供を目指しています。

本社営業本部
主任

大眉 早稚恵





生きもののいっぱいの未来を目指して

「ビオトープ」に学ぶ環境の大切さ

様々な生きものが共生する小さな自然、ビオトープ。当社はNPO法人「アサザ基金」と共に、未来を担う子どもたちと一緒にビオトープを造成する「わくわく子どもの池プロジェクト」を通して、生物多様性保全のための教育に取り組んでいます。

わくわく子どもの池プロジェクト

楽しみながら、体感する生態系

「わくわく子どもの池プロジェクト」とは、当社の社員が中心となって行う環境ボランティア活動です。「アサザ基金」や行政の協力の下、各地の学校等を訪問して環境教育を行い、子どもたちによるビオトープ造成をサポートします。

ビオトープとは様々な生物が生息することができる空間のことで、簡単に言うと「生きもののすみか」。「わくわく子どもの池プロジェクト」では、学校等の敷地内に池と水辺の周辺環境をつくります。

数回の授業を含む一連のプログラムを通して、子どもたちは自分が暮らしている地域に生息する生きものの種類と生態を知り、生態系保全の方法とその大切さを体で理解します。

そして、たくさんの生きものが仲よく暮らせるビオトープをどうやってつくり、守り、広げていけばいいのかを、子どもたちは一生懸命「生きものの気持ち」になって考えるようになります。

プロジェクト10回目の報告

木津幼稚園での造成

2009年9月、石川県かほく市の学校法人星名学園木津幼稚園で10回目のプロジェクトを実施しました。

今回は3日間かけて、幼稚園の近くの公園に行って生きものを観察したり、「生きものとお話をする方法」を学ぶ授業等を行いました。

ビオトープ造成当日、当社のボランティアメンバーは、100人を超える園児全員と一緒に作業しました。ビオトー



全園児が参加して、園庭に自分たちの池「虫ホテルランド」を完成させました。

ブに使用する土は「赤土」と呼ばれる粘土質の高いもの。園児は「うわあ。粘土だ〜!」とはしゃぎながら、バケツやシャベルを上手に使って楽しそうに土を運びました。水を入れてアサザやマコモ等の水草を植え、メダカとタニシを放流した後に、年長組の園児が考えた名前「虫ホテルランド」の看板を立ててピオトープが完成。自分たちの幼稚園に、自分たちの手で素敵な「生きもののすみか」をつくることができ、園児にとって興奮の3日間になりました。

「わくわく子どもの池プロジェクト」は2007年に始まり、

東京都、北九州市、そして今回の石川県において、2009年度までに12の小学校等で実施してきました。これからも、点から線へ、さらに線から面への展開を目指して、活動を推進していきます。



ホーム>CSRへの取り組み>CSRレポート2010>CSR/ハイライト2010>生きもののいっぱい未来を目指して

関連情報

ホーム>CSRへの取り組み>CSRレポート2010>社会性報告>地域社会との関わり

ホーム>わくわく子どもの池プロジェクト情報発信サイト

参加した社員の声

「現地では、先生方や子どもたちをはじめ参加者のいろんな思いを聞いたり、作業終了後には皆様のご厚意でバーベキューをご馳走にもなり、人とのつながりの素晴らしさを実感することができました。このような地に足のついた活動を通じて地道に努力することこそ大切な事ではないかと感じました。素敵な経験ができ、大変感謝しています。」



北陸支店長 田中新治

「子どもたちと泥まみれになりながらの作業でしたが、虫や魚取りに夢中だった幼少時代を思い出し、とても楽しく有意義な一日を過ごすことができました。改めて環境について考えるいい機会だったと思います。みんなで一生懸命つくった池や、メダカ、植物の今後の成長が楽しみです!」



北陸支店営業課長 松川裕一

「当日は幼稚園の先生・保護者の方々の多大なるサポートの下、園児たちと楽しく作業ができました。幼稚園のグラウンドが砂地だったので、そのまま掘るのかと思いきや、ピオトープに適した粘土質の土を運んできてつくるとは意外でした! 土ならなんでもいいわけではなく、池をつくるにも様々なコツがあるのですね。」



北陸支店 五十嵐美恵

「ボランティアと呼べるものに参加したのは初めてでしたが、子どもと遊ぶ感覚で楽しく作業でき、よい気分転換になりました。自分たちがつくった池にメダカや植物が育っていると聞いて、嬉しく思っています。ぜひまた見に行きたいです。」



本社営業本部主任 角川修

社会性報告

地域社会との関わり

リース満了PCを小中学校等に寄贈

当社では、お客様より返却されたリース満了品のうち再使用可能なICT機器については、関連会社のリブートテクノロジーサービス(株)にて再販を行っています。

2009年度はそれら再販可能な機器のうち、モニター60台をICT教育推進プログラム協議会が運営する「リサイクルPC寄贈プログラム」に提供しました。このプログラムでは、寄贈された中古パソコンを、同協議会が定めた手順によってデータを消去した上で再生し、小中高等学校等の教育現場に寄贈しています。当社では、リース満了品の有効な再利用を進めることにより、環境負荷を軽減し循環型社会の実現に貢献したいと考えています。

社会貢献型株主優待制度の実施

当社では、社会貢献型の株主優待制度を実施しています。この制度は、希望する株主の方の株主優待品の受け取りに代えて、当社が当該優待品相当額を社団法人国土緑化推進機構「緑の募金」へ寄付させていただくものです。2009年度は71名の株主様がご希望され、198,000円の寄付を行いました。

NEC Make-a-Difference Driveへの参加

NECグループでは、社員参加型で地域社会貢献活動を行い、企業価値を高めていこうという運動(Drive)“NEC Make-a-Difference Drive”に取り組んでおり、当社もこの運動の下、次の活動を行いました。

●献血活動への協力

2009年6月、日本赤十字社の立川献血ルームでの献血に西東京支店が参加、12月には仙台のNECグループ共同の献血活動に東北支店が参加しました。また、2010年2月には本社ビルで献血活動を実施し、本社従業員が参加しました。



本社ビルでの献血活動

●発展途上国の子どもたちへの教育支援

2009年度は、使用済み切手2,955g、使用済みプリペイド

カード48枚および書き損じハガキ353枚を全社で収集しました。これらはNEC社会貢献室を通じて、発展途上国の子どもたちへの教育や医療の支援に役立てられています。



使用済み切手の収集

従業員との関わり

人材育成

企業理念の実現のためには、高い専門性と自律的な行動、さらに、市場環境変化に対応できる能力の推進が必要です。当社では人事制度の的確な運用や戦略的な人事ローテーション、充実した教育体系の運用が機能するよう取り組んでいます。

中でも教育体系の構築に関しては、従業員個人の能力開発にフォーカスし、まず会社が期待するスキル(求める人物像)を明確にすることで、各種教育施策の意図を共有して従業員の気づき・動機づけを促し、自助を共通的に定着させることを意識しました。

2009年度の研修では階層別研修を大幅に見直し、若手社員を対象とした実務研修および中堅社員から若手管理職を対象としたマネジメント研修を実施しました(実務研修:46名、マネジメント研修:47名受講)。また、スキルアウトラインを明確化したことで、気づき・動機づけを促すことにもつながりました。

豊かな職場づくり

年に1回、異動希望を含めた短中期的なキャリアプランや会社・職場への意見について部下が上司と話し合う、自己申告の「2WAY制度」を設けています。さらに、希望する社員は、「人事直行便」という制度で自分の意見を人事や経営陣に届けることができます。

福利厚生

従業員が業務に専念できる社内環境および私生活のサポート体制を構築するとともに、「ワークライフバランス」の観点からも福利厚生の充実を図っています。

●ファミリーフレンドリー休暇制度

年次有給休暇とは別に、家族・地域や社会との共生を図ることを目的として導入された休暇制度で、医療・看護、配偶

者の出産、疾病予防、家族の介護、学校行事関係、ボランティア活動等のため、休暇を申請することができます。2009年度は延べ300日の利用がありました。

●介護休職制度

家族の介護が必要な社員のために介護休職制度を設けており、介護対象家族1人につき通算して1年取得できます。また、1日30分～2時間、勤務を短縮できる介護短縮勤務制度も利用することができます。

●育児休職・育児短時間勤務制度

育児休職制度期間は法定期間を上回っており、原則として子が満1歳6カ月に達する日まで、または子が満1歳に達した後最初に到来する3月31日まで取得することができます。現在、出産する社員の育児休職率は100%です。また、育児短時間勤務制度では子が小学校に就学するまでの期間、1日30分～2時間勤務時間を短縮することができます。2009年度は9名の社員が同制度を利用しました。

●外部委託カウンセリング

仕事からプライベートまでの幅広い場面で、メンタル面における様々なサポートの実施を目的に、2007年1月より、外部委託の社員サポートプログラム「EAPカウンセリング」を導入しています。2009年の年間利用率は4.2%となっており、気軽に相談できる窓口として社内への定着を目指しています。

●同好会活動の支援

バスケットボール、サッカー、野球、テニス、釣りの同好会が活発に活動しています。



サッカー同好会



テニス同好会

顧客・取引先との関わり

お客様のために

当社は、リースを利用する最終ユーザーに加えて、リース

機器を提供するベンダーもお客様と考え、それらお客様の満足度を最大化すべく各種の施策を行っています。また、ファイナンスという側面からお客様の利便性を高めることに注力しており、リースにとどまらない各種ソリューションを提供してきました。

また、VALWAY121ネット(株)とアライアンスを組み、エネルギー使用量のデータ収集、分析ツールの提供から、管轄省庁への提出書類の作成まで一環して行う「e-エコエコ支援」を開始し、省エネ法改正にともなうお客様の管理事務工数の軽減に努めています。

当社内においては、お客様相談室を設置して、いただいたご要望等を一元管理し、サービスレベルの向上に役立てています。

株主・投資家との関わり

情報の提供

当社は、企業価値の向上および収益の適正な還元により、株主・投資家の皆様からの信頼と期待に応えることを目指しています。さらに、情報開示について継続的に改善・向上に取り組むことにより、株主・投資家の皆様に対する説明責任を全うし、より透明性の高い企業を目指します。

●情報集約体制の強化

タイムリーかつ充実した情報開示を目指し、2009年9月より社内の重要部門にIR兼務者を配置し、毎月、情報連絡会議を開催し、各兼務者から担当分野の重要情報やトピックス等の報告を受けています。また、IR兼務者には、IR活動の報告や情報提供を行い、情報集約体制のベースアップを図っています。

●投資家向けWebサイトの充実

オフィシャルサイト内に「株主・投資家の皆様へ」のコーナーを設け、タイムリーで充実した情報の掲載に取り組んでいます。この取り組みが評価され、2009年4月大和インベスター・リレーションズ(株)主催の「インターネットIRサイトの優秀企業580社」の1社に選定されました。



ホーム>CSRへの取り組み>CSRレポート2010>社会性報告

環境報告

環境経営への取り組み

政府による温室効果ガス排出量の削減目標や、環境関連法規制の強化等により、低炭素・循環型社会構築を目指す動きが加速しています。

当社は、本業を通じてお客様や社会の環境負荷軽減に貢献する「環境経営」に取り組み、リース契約の推進、エコファイナンスの販促等の活動を推進しています。

ISO14001審査登録

リース業界の先駆けとして、1999年12月に本社地区、2000年12月に営業拠点を含む全社で、ISO14001の認証審査登録を行いました。

●環境マネジメントシステム登録範囲

ファイナンスリース、メンテナンスリース、割賦販売、ファクタリング、融資および集金代行のサービスにおける

1. 買い取り物件のリース化
2. 環境に配慮したエコファイナンス
(環境に資する製品のリース、ファイナンス等)の販促
3. リースアップ品の3R
(リデュース、リユース、リサイクル)促進
4. 業務効率化による省エネの推進
5. エコ資金活用の促進

を推進するための環境マネジメントシステムです。



●2009年度環境マネジメントシステム運用状況

項目	時期	内容
環境経営委員会(全社・管理体)	四半期に1回	環境経営年度計画の実行状況を確認
環境内部監査	2009年8月	NECグループおよび外部監査員で構成した監査チームにより実施
環境関連法規への対応	四半期に1回	環境経営年度計画に順守評価表を織り込み実施
環境教育	随時	新入社員・転入社員の配属時に行う「環境ISO教育」
	2009年8月	全従業員を対象とした「著しい環境側面従事者教育」
	2009年11月	NECグループ全従業員を対象とした「NECグループ環境教育」

環境経営活動の目標と実績

環境性のみならず、収益性、社会性、実行可能性、継続的改善性を加えた独自の評価方法によって事業活動の格付けを行っています。環境経営方針に沿った5つ(①リース契約の推進、②エコファイナンスの販促、③リース満了品の売却、④業務効率化による工数削減、⑤エコ資金活用)を環境経営目標とし、各部門が年間環境経営目標を設定し、年4回開催する環境経営委員会にてPDCAサイクルを回すことで、自社の環境負荷軽減およびお客様と社会の環境負荷軽減への貢献を推進しています。

項目	目標	結果	評価
①リース契約の推進	41,735件	44,274件(成約高1,533億円)	◎
②エコファイナンスの販促	18,072件	18,580件(成約高401億円)	◎
③リース満了品の売却	170百万円	181百万円	◎
④業務効率化による工数削減	7,241時間削減	7,967時間削減	◎
⑤エコ資金活用	50億円	50億円	◎

環境会計

金融業は製造業と異なり、事業運営上のエネルギー使用量等でその環境保全効果を把握するのは適切でないと考えています。当社では、環境省ガイドラインの様式に準じつつ、当社の事業である「エコファイナンス」に的を絞った独自の環境会計を行っています。その中で、当社事業による環境への貢献と企業の利益(Gross Profit=総利益)という経済効果を検証し、環境保全コストと環境保全効果の両方を把握しています。

自社の環境負荷軽減への取り組み

リース事業における最大の環境負荷は、リース満了品の廃棄物排出です。当社は、再リースや中古品再販売による製品リユースを促進して廃棄物排出量の削減に努めるなど、環境活動を推進しています。

また、環境リスクマネジメントを実施し、順法確認や汚染防止に取り組んでいます。

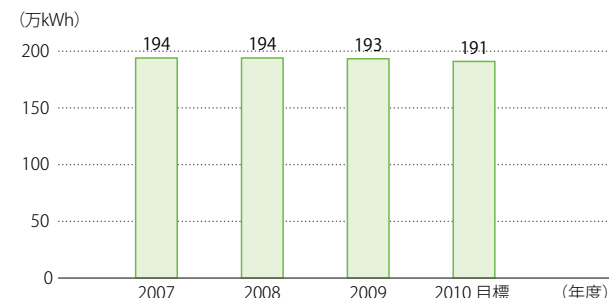
オフィスにおける環境活動の目標と実績

CO₂排出量について、1999年度を基準に2020年度達成の中期目標を定め、各種施策に取り組んでいます。

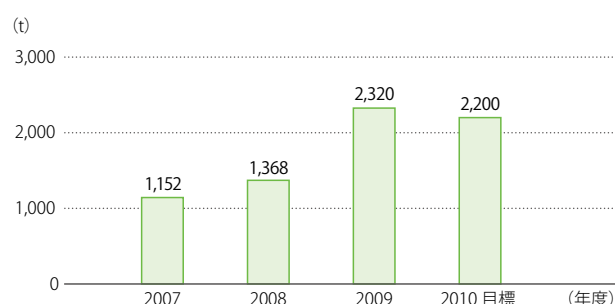
●CO₂排出量



●電気使用量



●産業廃棄物排出量



環境リスクマネジメント

当社の環境リスクマネジメントは、リース満了品の処理に関する廃棄物処理法を中心とした順法確認のほか、テナントとして、オフィスビルの土壌汚染やアスベスト等に対するリスク対策の調査・確認を実施しています。

●2009年度リスク対策

項目		対応・コメント
環境管理	過去に自社やグループ企業が、事業者周辺の環境や店舗、サービスの利用者等に重大な影響を与える事件や事故を起こしたか？ また、環境法令（廃棄物処理法、家電リサイクル法、環境教育基本法、ディーゼル車規制、環境確保条例）違反の指摘をされたり、行政指導を受けたか？	事件や事故なし 環境法令違反なし 行政指導なし
	賃貸ビルにアスベストが使用されているかを調査したか？	ビル管理会社に調査依頼した結果、アスベストの使用なし
	労働基準法による健康診断を行っているか？	定期健康診断（法定）や成人病検診（法定外）を実施し、結果を個人へ通知
汚染対策	賃貸ビルの土壌汚染対策は行っているか？	ビル管理会社に調査依頼し、土地の履歴を確認
	PCB処理保有の場合、処理はどうしているか？	保有なし
	健康や生態系に影響を及ぼす可能性のある化学物質（PRTR対象化学物質）の保有把握および排出削減に取り組んでいるか？	保有なし
緊急事態対応	緊急事態の処置、訓練は行っているか？	該当なし
苦情対応	騒音、振動、漏洩の苦情はあったか？	苦情なし



ホーム>CSRへの取り組み>CSRレポート2010>環境報告

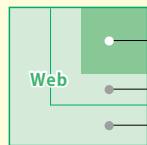
■会社概要 (2010年4月1日現在)

商 号 NECキャピタルソリューション株式会社
(NEC Capital Solutions Limited)
本社所在地 〒108-0014
東京都港区芝五丁目29番11号 (NEC住生ビル)
創 業 1978年11月30日
資 本 金 払込資本金 37億7,688万円
代 表 者 代表取締役社長 田中 重穂
従業員数 523名
事業内容 情報処理機器、通信機器、事務用機器、
産業用機械設備その他各種機器・設備等のリース
割賦およびファクタリング、融資、集金代行業務等

■編集方針・対象範囲

NECキャピタルソリューションはWeb版と冊子版、2つの「CSRレポート」を発行しています。Webサイトは、2009年度のCSR活動とその成果をお伝えする、フルスベックの「CSRレポート」です。本「CSRレポート 2010/ハイライト」は、読者の皆様に最もお伝えしたい内容を中心に構成しました。

CSR 報告の基本的な考え方



ハイライト

CSRレポート2010

CSRへの取り組み

<http://www.necap.co.jp/csr/index.html>

●対象範囲

対象組織：本社および営業拠点

対象期間：データは2009年4月1日～2010年3月31日の実績
(活動については直近のものを含みます)

Our CSR Harmony

NECキャピタルソリューションは、2007年度から「CSR 500 faces」をテーマに、約500人の社員一人ひとりが主役となって取り組むCSR活動を推進してきました。これからは、さらに広がりある活動を目指し、一人ひとりの熱意と創意を重ねた「Our CSR Harmony」が生み出すCSR活動を進めていきます。

■発 行

2010年6月 (年1回発行)

■この冊子に関するお問い合わせ先

CSR推進部 TEL:03-5476-5910 FAX:03-5476-1689